

園長あいさつ

園長 小松 守



今年、大森山動物園は、開園40年の節目の年を迎えます。

大森山動物園の源は、戦後間もない昭和25年、秋田県が全国にさきがけて千秋公園に設立した児童会館の附属施設としての児童動物園にあります。経営はすぐに県から秋田市に移りましたが、その後、大森山公園の建設に併せ児童動物園の「こころ」が引き継いだ「こどもの国」を目玉として、現在の大森山動物園ができました。昭和48年のことでした。

開園の初期からここで仕事をさせていただいた身として、内からの感想で恐縮ですが、現在の動物園は当時と比較して大きく変貌を遂げました。時代の変化もありましょうが、大森山動物園を動かし続けてきた原動力は、動物園をご利用くださる多くの市民、お客さま、そして支援して下さる皆さまの笑顔と暖かい心です。大森山動物園は今、市民の大切な財産として認知され、期待度は益々大きくなってきているように思い

ます。入園者の笑顔は動物園スタッフの心に響き、仕事への意欲へと置き換わってきたのが感じます。お客さまの力です。市民、お客さまと共に創り上げてきた40年とも言えます。

大森山動物園は今、「動物と語らう森」というテーマを掲げ、人と動物の接点を大切にしながら、カサカサになりがちな人々の心を柔らかく包み込めるような動物園になりたいと考えています。自然科学的な視点だけで捉えられがちな動物園ですが、生命(動物)、自然との共生を大事にする日本人の深層にある優しさや寛容性を思い起こさせるような、人文学的側面をも大事にするやわらかな動物園でありたいと思います。

今年の干支は蛇、成長のシンボルとも言われる動物、平成22年に市民と共に創り上げた大森山自然動物園構想もいよいよ目に見えて動き出しますが、まさに新たな大森山へと変革の年でもあります。ハード整備とともに市民と共に大森山自然動物公園として変革させていこうとする思いを大切にしたいものです。家族や恋人たちが集う「幸せ時間」を体感できる場となるよう、秋田の動物園の新たなスタートの年にしたいものです。今年も大森山動物園、どうぞよろしくお願い申し上げます。

こんにちは!あかちゃん



コモンマーモセット

9月14日、ももが2頭の赤ちゃんを産みました。ももは、一昨年11月5日にメスのこも、昨年4月7日に双子のオス蒼(あおい)とメス真桜(まお)を出産しており、わずか10ヶ月の間に3回の出産をしたこととなります。マーモセットの仲間は、普段は父親や兄弟が子を背負うなど、家族が子育てに協力的な事で知られていますが、旺盛な繁殖力には驚かされます。



フラミンゴ

11月3日、チリーフラミンゴのヒナが孵化しました。チリーフラミンゴの繁殖は、実に19年ぶりのことです。ヒナは、寒冷期に入ったため、両親や他のペアと一緒に室内に移動して越冬させています。フラミンゴは、親鳥が分泌するフラミンゴミルクという赤い液体でヒナを育てます。



ノドジロオマキザル

10月3日、ナナエ(22才)が通算10頭目となる赤ちゃんを産み、総数も10頭の大家族になりました。



コクチョウ

10月13日、展示場の隅で抱いていた卵から1羽のヒナが孵りました。ヒナが小さい頃は母親の背に乗って隠れたり、両親に守られながら一緒に泳いだりします。

移動動物の紹介

仲間入りした動物たち

よろしくね!



モモアカノスリ(ハリスホーク)

10月16日、やや気性が荒かった前個体に代わり、おとなしいオス、アンディーが来園しました。さっそく担当者の腕に乗ってお客さまの前に出るなど、活躍を始めています。



中仙ジャンボウサギ

10月21日、秋田県大仙市にある第25回全国ジャンボウサギフェスティバル実行委員会から、共に生後3ヶ月のペアを寄贈していただきました。それぞれセツ(オス)とユキ(メス)と名付けられた2頭は、人懐っこくておでこをなでられるのが大好きです。いつか、セツとユキの子供が見られるといいですね。

仲間入りの予定の動物たち

シロフクロウ

今春までに、福岡市動物園から若いオスとメスがやってきます。

プレーリードッグ

今春までに、仲間入りする予定です。

大森山を後にした動物たち

元気でね!



ベンガルヤマネコ



1月16日、メスのシルバーがシロフクロウとの交換で福岡市動物園に転出しました。

飼育動物数 (平成24年12月末現在)

類	種数	点数
哺乳類	52種	322点
鳥類	43種	184点
は虫類	11種	45点
両生類	1種	2点
魚類	4種	83点
無脊椎動物	1種	6点
計	112種	642点

訃報

忘れないよ...



ミーアキャット

♂ナーガ4才

8月11日、オスのナーガ4才が動脈硬化による腹腔内出血で死亡しました。ナーガは、2009年に長崎バイオパークから当園にやって来ました。一緒に来たメスのサキとの間にオスのカネツグなどの子どもを残しています。



シロフクロウ

♀ゴマ16才

8月24日、メスのゴマ16才が暑さにより衰弱して死亡しました。ゴマは、2000年3月に東京都多摩動物公園から来園しました。メスの特徴である白地に黒の斑点がある体色からゴマと名付けられました。全身真っ白なオスのシロとは相性も良かったのですが、子宝には恵まれませんでした。



マーコール

♀ルー9才

8月25日、メスのルー9才が産後の衰弱による循環不全で死亡しました。ルーは、2004年11月に川崎市夢見ヶ崎動物公園から当園にやって来ました。一緒に来たオスのマーやその後のロールとの間に3頭の子どもを残しています。



ウサギ(ライオンラビット)

♂ベル3才

10月11日、オスのベル3才が慢性的呼吸器疾患で死亡しました。ベルは、フサフサの毛並みと人懐っこい性格で人気でした。2011年冬には、道の駅セリオンの「名誉副駅長」として勤務し、来館者に親しまれました。